



# 第4回 国際極年 国内委員会ニュースレター

IPY4 国内委員会事務局 〒173-8515 東京都板橋区加賀 1-9-10 国立極地研究所内  
電話: 03-3962-5690 FAX: 03-3962-5701 e-mail: hajime@pmg.nipr.ac.jp

## 目次

- 1. IPY-4 (国際極年) に対応する日本の国内委員会設置について ..... 1
- 2. 国際極年 (2007/8) 対応小委員会第1回会合 (2004年3月24日開催) ..... 2
- 3. IPYディスカッション・フォーラム (2004年3月31日開催) ..... 3
- 4. 第4回国際極年 (2007/08) オープンフォーラム (2004年5月11日開催予定) ..... 4

注目

## 1 IPY - 4 (国際極年) に対応する日本の国内委員会設置について

委員長 藤井理行

これまで3回実施されてきた国際極年 (第1回: 1882-83年、第2回: 1932-33年、第3回 (国際地球観測年、IGY): 1957-58年) の第4回目が2007-08年に計画されています。国際科学会議 (ICSU) や世界気象機関 (WMO) などの国際機関主導で計画の具体化が進められています。これに対応するために、日本にも国内委員会を設置いたしました。

日本学術会議、極地研究連絡委員会の下に第4回国際極年対応小委員会が設置され、3月24日に第1回の会合が開催されました。15名の委員の互選により、委員長、副委員長が決められ、事務局長が指名されました (会合の報告は別の記事に記載します)。この小委員会の委員を中核とし、極地研究連絡委員会の委員およびオブザーバーを併せて、第4回国際極年日本国内委員会とします。

国内委員会は、国際情勢と国内の研究者の意見を双方向に伝達するための窓口の役割を務めます。また、IPYには広範囲の学術分野の研究者が参画しますので、計画立案や実施に際しての調整の場としての機能も努めたいと考えています。

このような業務を円滑に進めるために、IPYニュースレターの刊行を企画いたしました。不定期の発行とし、配布先も流動的に考えています。メーリングリストに載せたい/から削除して欲しいなどのご希望がありましたら、事務局までお寄せください。

また、国際極年に関連するご意見や、情報、照会など、何なりと委員会宛に送付いただければ、ありがたく思います。

(附) 国内委員会のメンバーをご紹介します (敬称略、順不同)。所属については、4月から改組のあった機関についても、04年3月時点での名称を用いています。

### A. 学術会議・極地研究連絡委員会 第4回国際極年 対応小委員会委員 (\*はBグループの委員と重複し ています。)

青木 茂	北大・低温科学研究所
岩田 修二	都立大・理学部
大畑 哲夫	北大・低温科学研究所
奈良岡 浩	都立大・理学部
藤井 良一	名大・太陽地球環境研究所
*山内 恭	極地研・南極圏環境モニタリング研究センター
山口 征矢	東京海洋大・海洋科学部
大久保 修平	東大・地震研究所
渡部 重十	北大院・理学研究科
*滝沢 隆俊	海洋科技センター・海洋観測研究部
伊藤 一	極地研・北極圏環境研究センター
末田 達彦	愛媛大・農学部
*島村 英紀	北大院・理学研究科
*藤井 理行	極地研・北極圏環境研究センター
*白石 和行	極地研・研究系

### B. 第19期 極地研究連絡委員会 委員

麻生 武彦	極地研・北極圏環境研究センター
池田 元美	北大院・地球環境科学研究科
島村 英紀	北大院・理学系研究科
白石 和行	極地研・南極隕石研究センター
滝沢 隆俊	海洋科技センター・海洋観測研究部
中尾 正義	総合地球環境学研
福地 光男	極地研・南極圏環境モニタリング研究センター
藤井 理行	極地研・北極圏環境研究センター
山内 恭	極地研・北極圏環境研究センター
横内 陽子	環境研・化学環境研究領域

### C. 第19期 極地研究連絡委員会 オブザーバー

長井 俊夫	海上保安庁・海洋情報部
秋山 實	国土地理院・企画部
羽鳥 光彦	気象庁・観測部
野崎 憲朗	通信総合研究所
渋谷 和雄	極地研・南極圏環境モニタリング研究センター
森脇 喜一	極地研・研究系
佐藤 夏雄	極地研・情報科学センター
大野 義一朗	東京勤労者医療会 東葛病院・外科

## 2

### 国際極年(2007/8)対応小委員会第1回会合(2004年3月24日開催)

3月24日に、IPY-4国内委員会が開かれましたので、ご報告します。

1. 互選により、委員長を藤井理行委員、副委員長を滝沢隆俊委員とした。

2. 小委員会の任務について、以下のように合意した。

(1) 第4回国際極年(IPY-4)研究計画案を協議し、ICSUのIPY計画グループに提案する。

(2) ICSUのIPY計画グループおよびその継承としての実施委員会などの国内対応組織として、同グループ/委員会と国内の連絡調整にあたる。

(3) 国内メディア、ファンディング機関、教育関係者、市民への広報活動、アウトリーチに努める。

(4) 観測現場での研究プラットフォーム、設営資産の利用調整に協力する。

3. IPY計画の経過とICSUのIPY計画グループに日本から提出した研究計画の説明ののち、

IPY4にたいする日本の取り組みについて以下のよう  
な討議がなされた。

(1) 日本の存在感を示す独自の取り組みと、国際社会の一環としての貢献という、対極的な姿勢を組み合わせ  
ていく方策を練らねばならない。

(2) 国内研究・観測機関とIPY4参加について、情報交換・調整の方法を検討しなければならない。特に、北極観測については、多くの研究・観測機関が研究  
に関与しているので、情報収集に努めること。

(3) 今後IPY計画になる可能性のある研究計画について議論した。国内においては、研連や学会の場を  
通してあらたな研究計画の立案を要請する。

(4) IPYへの日本の積極的な参加をアピールし、各国との積極的な協力を行なことによって計画を効率的  
で実務的に実施するためにも、本年秋に設置される予定のIPY4実施委員会メンバーに、日本からの

代表を入れるべく、努力する必要がある。

(5) 本委員会主催のフォーラムや普及講演会、ホームページの充実、その他広義の広報活動とともに、文科省や地球観測サミットなどとの連携が必要である。

なお、3月30日にパリで行われるICSUの第3回IPY計画グループ主催の公聴会に当委員会の委員を派遣することを決めた。(編者注: <3>参照)

### 3 IPYディスカッション・フォーラム (2004年3月31日開催)

第4回極年対応日本国内委員会は、パリで行われた会議に委員を派遣しました。正式の議事録は会議主催者が作成いたしました(次号ニュースレターに全文を掲載する予定です)、出席者の所感や私見を交えた報告を以下にまとめてみました。

#### 参加者

ICSU・IPY プラニンググループ: 委員長、副委員長他委員数名

各国国内委員会代表: ベルギー、デンマーク、フランス、ドイツ、イタリア、日本、スペイン(\*)・・・  
\*スペインは国内委員会未設置のため、スペインPOC(極研連に相当?)の代表

関係諸機関代表: AOSB、ESF、EPB、IHY、SCAR、IOC、JCOM、Arctic Council、WMO、NSF

#### 趣旨

会議の翌日から3日間(4月1~3日)同会場でICSU・IPY プラニンググループが、本会議を開く。世界の研究機関/国から提案された300件に近い計画を整理し、実施計画の骨子を作成する。それに先立ち、極域研究機関や各国国内委員会に対して、プラニンググループが作業方針の説明を行い、意見を聞く、いわば公聴会である。本会議にはオブザーバーの参加を認めないことから、諸機関・諸国からこのような会議開催の要請があったものと思われる。

#### 進行

事前に用意された議事次第に沿って、会議は進行した。

- 1) ICSU・IPY プラニンググループの任務、作業の進展、作業計画についての説明
- 2) これからの展開についての説明
  - 研究計画策定の概略
  - IPYの実施

3) 国内委員会、諸機関からの、学術的意義や実施方法などについての意見の聴取

- 4) 自由討論
  - 研究計画の構造
  - IPYの実施
  - 資料入手・活用
  - 教育・広報

5) 総括

解説 (項目番号は上の「進行」中の番号に一致)

1) および2)

これまでにメールなどにより入手した情報の確認に過ぎなかった。グループの情報公開の徹底を評価する。

3) 国内委員会代表よりも、諸機関代表の意見が活発であった。(後述「4-1」参照)

4-1) 実施形態について、活発な議論があった。ICSU傘下に、国内委員会と共催機関が並ぶのではなく、ICSUと同列に共同主催したいという、一部の機関の意向が伺えた。

4-2) 研究計画策定は、不適格な計画を切り捨てるのではなく、重複したものを統合するなど、「束ねる」作業が主になる。

4-3) 計画がIPY実施計画に入っても、資金獲得に直接つながるものではない。ICSUは、例えば「IPY資金」を用意し、研究計画の評価にしたがって、分配するなど、資金面のことは考えていない。

4-4) 本年秋に実施計画(案)が決められるが、自力で実施できる計画については、それ以降も、極年開始直前まで、「締め切りを過ぎた」という理由で門前払いにはしない。

4-5) インターディシiplinaryを謳って、特に極域社会科学の計画を要請しているが、現在300件の提案のうち社会科学に分類されるものは1件に過ぎない。グループには、これを改善する具体的手段が

見つかっていない。

委員長の日本へのメッセージ

1. ICSU としては、IPY が合衆国とヨーロッパの二者により実施されるという形を好ましくないと考

えている。日本の積極的な参加を歓迎する。

2. 日本の研究者に直接話しかけるために、訪日を考えている。ただし、日程の都合により、8月以前には困難である。

4

## 第4回国際極年(2007/08) オープンフォーラム

(2004年5月11日開催予定)

5月の地球惑星科学関連学会合同大会において、IPYフォーラムの開催を計画しています。多くのかたがたの参加をお願いします。

会合名：

第4回国際極年(2007/08) オープンフォーラム

日時：5月11日(火) 17:00-20:00

会場：幕張メッセ 国際会議場 301号室

主催：日本学術会議・国際極年(2007/08)国内委員会

プログラム

1. 趣旨説明(小委員会委員長：藤井理行) 17:00  
IPY4企画の経緯、特にIPY-WGでの議論を報告し、フォーラムの目的を絞る
2. 研究計画および新しい領域、プラットフォーム、技術の提案 17:15 (座長：伊藤一)
  - CACAGRANCE 計画(末田達彦)
  - CAWSES 計画(藤井良一)
  - 南北両極環境観測計画(伊藤一)
  - 北極海航海観測計画(滝沢隆俊)

南極の極限環境の探査から利用へ(福西浩)

話題調整中(水野亮/福井康雄)

気球望遠鏡による惑星観測(田口真/高橋幸弘)

大型レーダーによる超高層大気観測(佐藤薫)

南極無人多点磁場観測(門倉昭)

AUV等を利用した観測(野木義史)

北極漂流ブイ(菊池隆)

3. 総合討論 19:15~45 (座長：藤井良一)

フリーディスカッション。

IPY4の進め方について、今後の予定、国内の体制、全日本の計画としての準備など

話題提供

「地球観測」事業の立場から(松井孝典)

etc

4. 閉会 19:45

以上